

2 年学年だより

大淀中学校 2 年 平成 29 年 6 月 20 日 第 13 号

(*_*)人と人とのすれちがい

空梅雨ですね。雨が降ったら嫌だなんて、
ついつい個人的な都合で口にしてしまいがち
ですが、梅雨は恵みの雨です。夏を迎える前
に恵みの雨が必要です。

さて、国語の教材で『小さな手袋』という
小説を勉強しました。教科書の教材が年々変
わっていく中で、『小さな手袋』はかなり以前
から収録されている教材ですからでしょう。

作者の次女であるシホが、雑木林を舞台と
して認知症のおばあさんとふれあい、すれち
がい、そして魂のレベルでの交流を果たして
いくというストーリーです。期末テストの範
囲だからというわけではないですが、もう一
度全文を味読してほしいと思います。

私的なことを書きます。今月 2 日に父を亡
くしました。入退院を繰り返す生活を数年前
から過ごしていたので、今回も一カ月ほどの
入院で家に戻れるだろうと思っていました。

5 月 27 日土曜日に晩ごはんを一緒に食べ
ました。仏さんのような顔をして、じっと私
の顔を見ていました。その表情が気になって、
翌日曜日の夕方、実家を再訪しました。

小一時間ほど珈琲を飲みながら、よもやま
話をしました。私が辞去してから、数時間後
に体調が急変し、5 日後に亡くなりました。

いまだにその事実が腑に落ちていません。
実家に帰れば、いつもの場所に父が座ってい
るような感覚が残っています。

寡黙な人で、また父親と息子という関係か
ら、微妙な間合いがあり、じっくりと話をす
るということが稀でした。

父が入院してから、2 日間は意識があつた
ので、珍しく私の方から話しかけました。

酸素マスクをつけた状態で、父はしっかりと
意思表示をしていました。

今年に入ってから、家のこと母のこと自ら
望むことなどを、ぼつりぼつりと話していた
父でした。

人工呼吸器を取り付けることを頑なに拒ん
でいた父の意思を確認すべく耳元で父に問い
ただすと、ギュッと力強く私の手を握り返し
てきました。

無口で頑固。自らを語ることなく、黙々と
働いていた父。手をあげられたことは、一度
もありませんでしたが、褒められるというこ
ともなかった。(母親には口にしていたらしい
のですが・・・)

昨日は父の日でした。父の遺影の前に座っ
て、話をしました。[すれちがい・・・やっ
たんなあー。][今年に入ってから、短い時間
やったけど、話したなあー。][今もこうして
向き合って、話してるやないか・・・]

心の中で父と語り合っていると、部屋の振
り子時計が鳴りました。私の幼い時分から時
を告げていた柱時計です。5 月 29 日に父がゼ
ンマイを巻いていた時計です。父の遺影の前
から腰を上げて、ネジを巻きました。

亡き父の代わりに、ネジを巻くのは私の
仕事です。命のある限り・・・。

読書案内 50 字評

『容疑者 X の献身』

東野 圭吾著

天才数学者の石神は、想いを寄せる隣人
のために、完全犯罪を企てる。本当の献身を
知る。東野ミステリーの金字塔。

(2 年 3 組 前田 咲恵)

※学年黒板のディスプレイが変わりました。

3 組の青島 七夏海さん作成。

飾り付けは、2 組木村光那さんと

3 組の田原萌絵香さんがしてくれました。

